第 12 回熊谷市地域公共交通会議会議録

平成 25 年 1 月 15 日(火)
14:00～15:40　大里庁舎第３会議室

1. 開会

2. 会長挨拶(会長欠席のため木島副会長)

3. 議題

（１）直実号、ひまわり号の見直しについて

①「直実号」運行時間の見直し

【事務局説明】

直実号の現在の時刻表及び停留所ごとの乗車人数を説明し、病院の最寄りのバス停の利用が多いことや新たに通勤通学での利用者の獲得をめざすため、それに合わせた時刻の改正案を提出した。

【質疑応答】

・この時刻変更は、地元自治会や病院等の要望を受けてのものか。
→現在運行業者の国際十王交通と調整中であるが、今回のゆうゆうバスの見直し案に関しては、市民の方から受けた様々な要望をまとめ、それを反映したものである。

・熊谷東小のところが矢印になっているのは通過するということか
→通過ではなく、経由しないということである。藤間病院前を出てそのまま北大通りを進み、県地方庁舎前に至るルートになる。これは、熊谷東小の前の通りが当該時間帯にスクールゾーンに指定されており、車両の乗り入れができないためである。

・運行開始以来、朝のラッシュ時間帯の運行の遅れはどのようになっているか。
→厳しい運行ではあるが概ね順調に運行している。

・**始まりが 40 分早くなり、最後が 20 分早くなるということだが、運行会社としては問題ないのか。**
→始発が早まることでメイン利用者の利便性がよくなると思う。運行上の問題は特にない。

・**病院の受付開始時間に合わせて時刻を見直すということだが、これまで朝一番の総合病院着は８時５５分だったのが、第２便の９時に変更となっている。第１便のバスに乗って総合病院を利用する場合、最寄りのバス停から歩ける距離なのか。**
→藤間病院前の停留所から約３００メートル程である。ただ、現行の８時５５分着も利用があるので、２便に変更後も現行の５分遅れに抑えており、ほぼ従来どおりの利用は可能である。

・**今回の直実号の時刻見直しに関して、タクシー協議会との協議やタクシー事業への影響の調査は行われたのか。**
→今回の会議に諮り、議論することで問題点を探るという認識なので事前協議や調査は行っていない。

・**タクシー需要が減少している中でコミュニティバスの拡大を図ることは、業界としても重大な関心を持って考えている。深刻な状況にならないよう、バスのみならずタクシーへの影響度にも配慮してもらいたい。**
→今回の見直しにおいて、事務局の認識としては、便数は増えていないのでコミュニティバスの拡大とは捉えてはいない。

・**直実号に乗ってみたが、かなりタイトな運行をしていると感じた。星川や東小の前など狭い道では駐車車両のせいで遅れることも多く、もう少し時刻設定にも余裕を持たせたほうがいいのではないか。**

【結論】
・運行時間の見直しについて、提案のとおり了承される。

②「ひまわり号」運行ルート変更

【事務局説明】
ひまわり号の保健センター前停留所について、平成２３年１０月の時刻改定以降の経過を説明すると同時に、平成２５年３月３１日

をもって保健センターが廃止されることから、周辺に集落等もなく利用の見込めない当該停留所の廃止を提案した。

【質疑応答】

・保健センターの建物は廃止されるとどうなるのか。何かの施設として活用されるのか。また、活用する場合バス停の復活はありうるのか。

→現在のところ平成２６年４月１日から保育所の設置が予定されている。保育所については、保護者による送迎が行われており、利用者からもこの場所に寄らないほうが時間短縮につながるとの要望があることから廃止後の停留所復活は考えていない。

・この新たに設置される保育所は、大里地区を流れる和田吉野川以南の全ての保育所を統合してできるものと聞いている。車で送迎できない人が長島記念館や小八林周辺から通うには距離が遠すぎる。以前市に対して送迎バスの要望を出したが断られた経緯もあり、地元としてはこのバスが代わりに利用できればという思いもある。保育所の開設と同時に停留所が復活するのであれば、今回の一時廃止に関しては賛成する。

・ゆうゆうバス全路線に言えることだが、市内の全保育所を地図上に表示して、どの停留所から利用できるということを表示すべきである。子育てするなら熊谷市というキャッチフレーズで平成 29 年度に人口 23 万人を目指すのであれば、そういう地図をつくるべきである。市民の足として便利になってほしいと思うので、先ほどのバス停の復活もそうだがぜひ検討してほしい。

→保育課とも協議したのだが、既存の大里第二、第三保育所の送迎は現状ほぼ保護者の車で行われていることから、新設の保育所についても保護者の送迎で対応でき、停留所を復活させる必要性は低いという認識である。

・大里第二、第三保育所は地域の中にあり、祖父母による送迎でも歩いていくことができた。しかし新設の保育所は田んぼの中にあり、集落から 4～5 キロも歩かなければならない。現実的に車がなければ送迎は不可能である。できれば送迎時間に合わせてバスの時間も合わせるといったことも検討してほしい。

【結論】

・停留所の廃止について、提案どおり了承される。平成 26 年以降の再開については、再度交通会議に諮る。

（2）熊谷市ゆうゆうバスについてのアンケート実施について

資料 3 の内容に基づき、1 月から 2 月にかけてアンケート調査を実施することを説明した。調査方法については、市民満足度調査によるものと、ゆうゆうバスに乗車し聞き取りを行う方法の 2 種類を想定している。

【質疑応答】

・資料 3 を見ると、アンケート調査問 1 で利用したことがないという選択肢を選ぶと問 3 へ進むことになるが、利用したことがないのに使いやすくなったかどうかを尋ねるのは変ではないか。なぜ利用しないのかを問うほうがよい。また、問 5 の選択肢にひまわり号が抜けている。

→指摘を受け、設問の再検討を行う。

・このアンケートの調査対象は年齢、性別など属性についてはどのようなものを調べるのか。また、利用しない人がなぜ利用しないのか調べる工夫も必要だと思う。

→市民満足度調査に同封するので、それにあわせて性別、年代、居住地域等を記入していただく。対象となるのは１８歳以上の無作為に選ばれた市民である。また、聞き取り調査の際は学生にも質問を行う予定である。

・聞き取り調査は何人程度を想定しどのように行うのか。重複する人も出てくるのではないか。

→人数は具体的に決めてはいないが、一日何便かに乗車し、乗り合わせた人に協力をお願いする。早い時間帯であれば学生利用者にも協力いただけると考えている。

・学生だけでなくバランスよく調査したほうがよい。

→市民満足度調査とあわせるので、バランスは確保されるだろう。

・バス業者はこうしたアンケートを行ったことはあるか。

→特に行なったことはない。

・改善項目として、バス停を増やしてほしいとか終バスを遅らせてほしいといった意見が出ると思うのだが、費用対効果の関係でどの程度なら実現可能かという具体的な数値があれば分かりやすい。

→本日配布した資料の中にゆうゆうバスの運行概要を載せてある。この会議で意見を聞きつつ検討することになる。厳しい財政状況を勘案し、最低限の投資で最大の満足が得られるような方策を考える視点が必要。

【結論】

・指摘箇所を修正し、アンケートを実施する。

（3）ゆうゆうバスの利用促進策について

【事務局説明】

昨年の冬に引き続き、市のキャラクターであるニャオざねを用いて直実号の利用促進イベントを実施する。詳細については市のホームページにて案内するほか、市内の幼稚園や保育所等へチラシの配布を予定している。また料金については、小学生以上は有料とする。

昨年の結果については、2 月から 4 月まで今年と同様に実施し、それ以降の乗車人数が増加したことから利用促進の効果があったものと考えている。

【意見】

・アンケートにニャオざねイベントに参加したかという項目があれば効果が分かりやすい。

・これはこれでよいと思う。ただ、他の路線についても PR が必要である。例えば聖天様が国宝指定されたことにより、観光客が増加しているのだが、駅からのアクセス手段が民間の路線バスしかないように思われている。確かに民間のバスの乗り場案内はあるのだが、ゆうゆうバスでも行けることをアピールすべきである。民間のバスは直通で速いが運賃が高い。こちらのバスならば時間はかかるが安く行くことができ、さらに一日乗車券を活用すれば周辺の名所を巡ることもできる。民間バスとの兼ね合いもあるとは思うが、もっと前面に出して案内を充実させるべきだと思う。

→聖天様に関しては、国宝指定を受けてこれまで南側にあったバス停を朝日バスの妻沼聖天前停留所と同じ場所にも新設した。これにより、行きは朝日バスでこられた方が帰りはゆうゆうバスグライダー号を使うといった事例も見られるようになった。実際グライダー号の利用者数は増えている。このあたりをさらに PR していきたい。

・熊谷駅にボタンを押すと民間も含めてこれはどこ行きのバスか表示されるようなジオラマがあるとよい。熊谷は探せば名所となるものがたくさんあるので、そこに行くにはどのバスに乗ればよいか分かりやすく表示したものを置いておけば便利になるだろう。これからはゆうゆうバスも含めて街全体が便利になるような利用促進を考えなければいけない。

→春先に籠原駅から別府沼、能護寺を経て聖天様に至るバスを運行したりはしているが、今後もゆうゆうバスを使えばこういった観光名所を回れるというルート案について我々も提案していきたい。

・人口が増えないのであれば外から訪ねてもらうしかない。いかに分かりやすく表示するか、そういったことを踏まえ利用促進を考えてもらいたい。

・東京駅の八重洲口には無料の循環バスが走っているのだが、そのバス停に携帯電話を近づけてバーコードを読み取ると、次のバスが今どこを走っていていつ来るかがすぐに分かる。ぜひ導入を検討してもらいたい。

【結論】

・提案どおり了承される。

4. その他

・平成２３年度公共交通利用転換促進調査の結果報告

【埼玉県交通政策課から説明】

資料：平成 23 年度公共交通利用転換促進調査の結果報告参照

・ほたる号事業評価について

【事務局から説明】

資料：地域公共交通確保維持改善事業・事業評価参照

ほたる号に関する国の補助事業について、改善事業・事業評価報告書の提出を求められているため、今回の会議で一度審議し、かつ実績報告の数値が確定する３月に再度修正したものを委員へ送付することを説明し、了承された。

5. 閉会